

「ぎふ農業・農村基本計画」 令和5年度目標達成状況

◆基本計画の目標指標数 69指標

- ・基本計画は、令和7年度の目標を設定していますが、進捗管理のために、年度ごとの目標を設定しています。
- ・今回、令和5年度(3年目)の目標に対する実績評価を行いました。

- 全69指標の実績を評価(実績調査中の指標を含む)
 - 主要5指標で単年度目標を達成できたものは、3指標
 - 主要指標以外で単年度目標を達成できたものは、27指標
- ※主要指標を含む全69指標の実績については、別添(資料1-2)に整理

主要指標(5指標)の実績

(1)担い手育成数

目標を達成した

R1年度(基準年)	R5年度		R7年度(最終年)
実績値	目標値	実績値	目標値
473人・経営体	1,320人・経営体	1,568人・経営体	累計2,200人・経営体

【評価・分析】

○「ぎふアグリチャレンジ支援センター」による相談から営農定着まで一貫した就農支援や、就農・就業希望者向けの個別相談会の開催等、就農促進に取り組んだ結果、資材価格高騰による独立就農の初期投資の負担増加、農業経営体の規模拡大による労働力需要の増加等を背景に、雇用就農者が大きく増加したことで、目標を達成した。

【今後の方針】

○対面およびオンラインの両手法を活用した就農相談会や個別相談を積極的に展開するほか、物価高騰等の情勢に応じた対策を講じ、就農希望者の確保を推進する。

(2)地産地消率

目標を達成できなかった

R3年度(基準年)	R5年度		R7年度(最終年)
	目標値	実績値	
実績値	目標値	実績値	目標値
48%	50%	41%	52%

【評価・分析】

○「清流の国ぎふ」地産地消推進会議で計画した取組み(地域ぐるみで取り組む県民運動の展開、給食等への県産農畜水産物の利用促進、加工食品への県産農畜水産物の利用促進)を推進し、それぞれの取組みで成果(以下参照)があったが、一部の品目で、夏季の高温や積雪害の影響によって、調査対象期間の県産農産物の出荷量が減少したため、目標を達成できなかった。

※地産地消の主な取組成果

■地域ぐるみで取り組む県民運動の展開

- ・地産地消ぎふ応援団数 R4 1,468 → R5 2,526
- ・地産地消フェア開催数 4回/年度
- ・地産地消フェア参加店舗数 延べ1,792店舗 (R3~R5)

■給食等への県産農畜水産物の利用促進と食農教育の推進

- ・社員食堂における地産地消メニューフェア 県内3企業
- ・朝市直売所での食農教育 延べ8回 (R4~R5)

■加工食品への県産農畜水産物の利用促進

- ・6次産業の総合化事業計画数 R4 101 → R5 103
- ・6次産業化商品数 R4 292 → R5 306

【今後の方針】

○「清流の国ぎふ」地産地消推進会議を主体としたこれまでの取組みを継続するとともに、食農教育やSNS等での情報発信の他、朝市・直売所や地産地消に取り組む飲食店・販売店等の利用促進を図るため、モバイルスタンプラリーの実施やフェアの開催などを行い、地産地消の推進強化を図る。

(3)ぎふ清流GAP実践率**目標を達成した**

R1年度(基準年)	R5年度		R7年度(最終年)
実績値	目標値	実績値	目標値
—	15%	25%	35%

【評価・分析】

○ GAP指導員(201名)や清流GAP推進センターと連携した指導体制の強化を図るとともに、指導員によるGAP導入手法や経営改善指導などの丁寧なサポートや、GAPの導入に必要な検査及び機器整備の支援により、清流GAP認証数が106件に拡大し、目標を達成した。

【今後の方針】

- 農業者への個別指導を行うGAP指導員の資質向上に加え、産地単位のGAP指導ができる組織評価員を継続的に育成し、指導体制を強化する。
- 引き続き、持続可能な農業を実現するため、ぎふ清流GAPに意欲的に取り組む農業者に対して、機械や設備の整備等を支援する。

(4)飛騨牛の輸出量**目標を達成できなかった**

R1年度(基準年)	R5年度		R7年度(最終年)
実績値	目標値	実績値	目標値
51.7t	80t	64.8t	100t

【評価・分析】

○ 協力覚書を締結する豪州大手食肉卸やフランスのレストランと連携したプロモーション、台湾大手食肉卸売業者へのPRを実施したほか、今後、需要の伸びが見込まれるマレーシアでのメニューフェアの開催等が功を奏し、最大輸出先の台湾やマレーシアでは輸出量が維持、増加した。一方、香港や欧州等では国内他産地の低価格和牛の流通が増加する中、高価格を維持した飛騨牛の需要が減少し、目標を達成できなかった。

【今後の方針】

- 更なる輸出拡大に向け、高価格帯でも飛騨牛を購入する地域にターゲットを絞り、流通事業者やレストランへのPRを強化するとともに、台湾や欧州での大規模商談会への出展や、富裕層が増加しているインドネシアでのバイヤー向けプロモーションの実施により、新たな販路拡大とブランドの定着化に取り組む。

(5)地域防災力の向上に取り組むため池数

目標を達成した

R1年度(基準年)	R5年度		R7年度(最終年)
実績値	目標値	実績値	目標値
—	148箇所	152箇所	累計270箇所

【評価・分析】

○災害の予測から発生までのため池管理者、市町村、県の対応や住民への情報伝達を明確化した「ため池防災行動計画(タイムライン)」を各務原市ほか14市町の61箇所で作成し、行政や地域住民が参加するDIG(災害図上訓練)を瑞浪市で1回開催したことにより、累計152箇所となり、目標を達成した。

【今後の方針】

○地域防災力の向上に取り組むため池数を増加させるには、地元の協力が不可欠であり、地元調整等を密に行うとともに、引き続き、防災行動計画やDIGの優良事例を他地域に横展開し、地域住民の防災意識の向上を図る。